

作物と雑草

最近、南米やアフリカで陸稲の栽培が注目され、国際的な農業研究所はその栽培技術の開発にいろいろな研究課題を発足させている。南米でもアフリカでも、陸稲栽培の重要な障害は、早ばつ・雑草・それにいもちの3つである。開発途上国の農業では、農薬など生産資材の投入がむずかしいので、病虫害の防除は作物に耐病性・耐虫性を与えることによって達成しようとされている。このため、国際的な農業研究所は、イネ・ムギ・トウモロコシ・バレイショをはじめ重要食糧作物について、近縁の野生種も含めて耐病性・耐虫性の遺伝質を広く集め、それらを利用した耐病性・耐虫性品種の育成を着々進めており、将来、耐病性・耐虫性の利用は作物病虫害の防除にますます大きな役割を果たすことになる。雑草防除にも、作物の特性を生かそうとする試みがある。初期生育が旺盛で、生育初期の段階で雑草との競合に打ち勝つような品種を育種家は求めている。また、前述した陸稲の場合には、葉が直立せず垂れ下がり、地表を遮蔽するような草型が考えられている。しかし、初期生育が旺盛なことは別として、葉が垂れ下がるような草型は、水稻の多収性品種が直立型の草型であることから考えると、果して多収を期待できるかどうか疑わしい。もしこの考えが正しいとすれば、雑草防除を病虫害の防除の場合のように品種の特性に期待することはむずかしいであろう。雑草防除は、他の手段によるのが合理的と考えられ、この意味で除草剤の使命は殺菌剤や殺虫剤よりも大きいと考えられる。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 石倉秀次〕
財団法人 残留農薬研究所 理事長

目次 (第14巻第10号)

年頭のことば……………	2
＜農林水産技術会議事務局長 川嶋良一＞	
年 頭 の 辞……………	4
＜農薬工業会会長 菊池浦治＞	
会長就任挨拶＜千野知長＞……………	4
会長退任挨拶＜戸荻義次＞……………	6
植物調節剤利用開発普及三十周年記 念式典開催す…………… 7	
最近の落葉果樹の植物生育調節剤……………	26
＜果樹試験場 山崎利彦＞	
1. ニホンナシ……………	26
2. ブ ド ウ……………	28
3. カ キ……………	30
4. モ モ……………	30
5. オウ トウ……………	30
6. ウ メ……………	30
7. イ チ ジ ク……………	31
8. リ ン ゴ……………	31
外国文献抄録	
メタノールによる土壌からの除草 剤の抽出……………32	

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕